1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

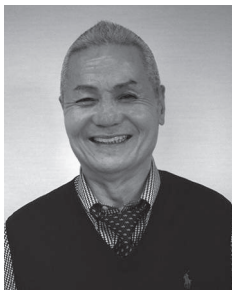
どっこい生きてます！

毎月開いている潮騒人間塾ですが、7月は栗原センター長の長女、加納淳子さんが講師を務めてくれました。「父親がヤクザでも私はグレないぞ！」と決意し、機能不全家族が陥りがちな世代間連鎖という負のスパイラルを自力で乗り越えた苦難の人生を振り返ってくれました。まさに「運命は乗り越えられる」お手本です。当事者にも家族にも希望となる素敵なメッセージでした。（3ページに関連記事）

2018
7

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

機能不全家族の修復と連鎖を断ち切るために



酷暑がつづきますが、みなさま体調を崩していませんか？どうか「命を守る」を最優先に今夏の厳しい“灼熱地獄”を乗り切ってください。さて、今月は依存症問題では避けて通れない家族のあり方、機能不全家族について考えます。例えば30歳すぎのいい大人なのに、芸能界などで活躍する有名人の息子が覚醒剤事件で逮捕されると、必ず当事者だけでなく親も指弾されます。しかし、親の育て方が悪かったから依存症に陥ったのではなく、当人がクスリと出あってしまったことが不幸の始まりです。裁判でも初期段階では情状証人として親が登場し、本人を看護、監督することで更生を助けるという流れが一般的です。キリスト教の風土から個人の自立が基盤となる欧米社会では考えられない“奇妙”な光景です。ある意味で家族も被害者と言えますが、共通する因子として機能不全家族の問題が依存症と深く関わっています。本来リハビリ施設の仕事ではないとの議論もありますが、 得体の知れない世間体によって追い込まれている家族支援が不可欠であり、当事者の回復にも重要なポイントであることを、私は自分の体験から痛感しています。

機能不全家族―― その名の通り健全に機能していない家庭のことです。この環境下で育った子供は幼少期の重要な人格形成において愛情を得る機会が非常に乏しいことなどにより、自己愛や自尊心、他者への共感、他者の苦しみに対する理解が低いまま成長するとされます。その要因の代表格にはアルコール依存、虐待、共依存などがあげられ、親や祖父母らが機能不全家族で育ったケースが多く、無意識に世代を超えて連鎖していくようです。私の場合は父親の戦死（不在）と母親の再婚で、幼少期からの愛情不足と深い孤独感がありました。そのため自分の家庭をつくろうと結婚を急ぎましたが、やがて覚醒剤とアルコールで家庭崩壊し、最初の妻や娘達の心に深い傷を負わせました。しかし、60歳からの回復の歩みで出会った新しい家族構築に成功し、アルコール依存症の妻と依存症の問題を抱える２人の息子とともに、今では仲間の回復を支援する充実した毎日を送っています。

既に２人の実の娘とは関係修復を図れたことはこれまでにもふれましたが、ここにきて精神保健福祉士の国家資格を持つ長女が、仕事の経験を生かして主に入寮者のメンタルヘルスケアで潮騒JTCの運営に非常勤職員として加わってくれています。重症のヤク中＆アル中の私を父に持つ長女は、アダルトチルドレンとして生きづらさを抱えて成長しましたが、 自力で世代間連鎖の鉄鎖を断ち切り、自分の世代では機能不全家族には陥りませんでした。その生き方は我が娘ながら、私の手本となるものです。機能不全家族を断ち切るには自分の問題を第一義として、ひたすら回復に努めることが大事です。すると自然に埋め合わせのプログラムにも取り組めるようになります。元ヤクザの私ですから埋め合わせは半端ないものです。残りの人生で何人の人達に埋め合わせできるか分かりませんが、少しでも社会のために役に立てればと焦らずに歩みます。　（センター長 栗原 豊）

潮騒

人間塾

加納淳子さん

（栗原センター長の長女）

依存症家族の困難を自助努力で克服した人生を語る

社会で頑張っている人達から謙虚に生きる姿勢を学ぶ「第4回・潮騒人間塾」が7月12日、鹿嶋市宮中の鹿嶋市商工会館多目的ホールで開かれ、栗原センター長の長女である加納淳子さんが「生きる」をテーマに講師を務めてくれました。淳子さんは、言葉に尽くせない苦労人生を歩みながらも自力で運命を切り開き、今では回復の道を歩むセンター長の支え手となっています。この日は前半で自分の生い立ちを話し、後半ではメンタルヘルスの自己診断を入寮者に促し、自分の問題に対する気づきのヒントを与えてくれました。最後に栗原センター長は、自助努力で世代間連鎖を断ち切った淳子さんに、目を潤ませながら感謝を述べました。

淳子さんは、若いころから任侠道人生を歩み重度のアルコール＆覚醒剤依存症の父をもつ娘として生きづらさを抱えながらも、4年制大学を卒業してキャリアウーマンとなり、結婚後も子育と仕事を両立させて幸せな家庭を築いてきました。昨秋に最愛の夫を亡くす不幸に見舞われましたが、その生き方にブレはありません。自力で自分の問題と向き合いながら、見事に機能不全家族の連鎖を断ち切り、今では支援職の一人として潮騒の運営に関わってくれています。当事者の家族が専門職として施設を下支えするという、これ以上ない“強い味方”を潮騒は得ました。

講話で淳子さんは、依存症の父の影響下でも逆境にめげずに、自分の思い描く生き方を手にした歩みに触れました。崩壊家庭のなかで中学生頃からは「世間から違う目で見られている」ことへの反発心から、「極道の父の娘だからといって絶対にグレない、自分は不良や非行に走らないと心に決めた。そうして、普通の生き方、一般的な家庭を築こうと生きる目標を設定し頑張ってきた」と述べました。このように、自分が信念に基づいて行動することで、依存症家庭の困難な状況を乗り越えた“自助努力”の生き方を振り返りました。

その努力が実り、大学を卒業して仕事でも管理職として責任ある地位を任され、結婚して夫や両親、子供達と一家団欒のある恵まれた家庭を築きました。しかし、順風満帆だった人生に突然、訪れた夫の死。原因は周囲がまったく気づかなかった夫のアルコール問題だったことを自覚し、淳子さんは「強い精神だけでなく、甘えや弱さを許容する度量も必要」と自分を見つめ直しました。まさに依存症回復の要となる「自分の弱さを認める」ことに通じる思考変換です。栗原センター長と再会した時には、「過去の険しい表情が嘘のように、まるで仏様のような顔付きになっていたことに驚いた」と言います。

その上で淳子さんは、「普通を目標に頑張ってきたけれど、世間には普通という世界はないんだとわかりました。なので、潮騒のみなさんが特別な人たちだとは思っていません。どうか今日だけは（クスリを）打たない、（アルコールを）飲まない、（ギャンブルを）やらないでください。過去は変えられないけど、未来は変えられます。私も子供たちから“お母さんの子供でよかった”と言われるように成長していきます」と“今日一日の精神”に寄り添って生きていく決意を語ってくれました。（潮）　※入寮者の感想文は次号（8月号）で掲載します。

女性ハウス

「るみの家」「ピアサポ祭り」感想文

恒例の「ピアサポ祭り2018（第14回目）」が7月8日、“モグラ叩きだ人生は？!　スパン！っといかないぜ～長いスパンでみる生と性の物語生きづらさスペクトラム”をテーマに、今年も東京都世田谷区で開かれました。摂食障害者の自助・ピアサポートグループ「NABA（ナバ）」などが共催したイベントです。以下は、参加した「るみの家」女性メンバーの感想文です。

ピノコ 感想文

キャスターの小島さんの話がとても良かった

午前の部の「モグラがいつ顔を出すかはわからない」という話は共感できました。午後の小島慶子さん・津田篤太郎先生の話もおもしろく、眠らずに興味深く聞けました。小島さんはキャスターでもあり、テレビでも見慣れていたので、過去の生い立ち、育った環境から男尊女卑、（これは時代もそうさせていたのかなと思いますが…）テレビでは順風満帆に育ってニュースキャスターになったと思っていたけど、色々苦しさも持っていたんだなと思いました。男勝りな部分もあり、バーベキューでのソーセージがオーストラリアでは相撲と同じく鉄板が男性の場や、幸せとは純度100%、不純物がないものと思っていたこと、体内に入るものは食べ物・SEX、まさしくその通りだけど、みんなの場で話せる笑いあり、とてもよかったです。

津田先生は医者から見る長いスパンも、依存症患者とは違う視点からで医者の本音が聞け、西洋医学・東洋医学の両方を勉強されているからの話で、父が昔東洋医学の陰陽五行説の木・火・土・金・水を話していたこと、父と話したいなと思いました。「もう一度詳しく聞きたい、元気なうちに」と思いました。父の患者さんのなかに、「まきちゃんが跡を継げばいいのに」という言葉を思い出しました。この世のなか、苦しんで回復に向かって頑張っている人がたくさんいると知ったのと、本当はこういう場を知らずに苦しんでいる人はもっとたくさんいるんだろうな、と思いました。人生を苦しんでいる人に「こういう場があるよ」と教えてあげたいと思いました。1日聞いて自分が楽になったからです。終わったあとは、何だか心が晴れ晴れした気がしました。（ピノコ）

あきら 感想文

去年聞けなかったゲストの話が印象に残った

私の印象に残ったお話は、上岡陽江さん、津田篤太郎さん、信田さよこさん、小島慶子さんの4人の講話でした。元アナウンサーの小島さんのお話とドキュメンタリーなどテレビに出ている上岡さんの話が、とてもおもしろかったです。小島さんが摂食障害と初めて聞き、びっくりしました。よくテレビなどで見ていたこともあり、まさかあの人がと思い、ずっと話を聞いていましたが、身近にあり、誰だってなってしまう病気だと、この依存の怖さをそのときしみじみ思いました。今、私は止まっていますが、いつまた、どのときに「ハク」のかわかりません。時間をかけ、この病気と向き合いたいとそのとき感じました。

色々な病気を抱えている人達がたくさんいます。私もそのうちの1人として、これからも病気と向かい合い、ここ「るみの家」でクリーンを続け、回復を続けたいと思います。信じられませんが、私は7月8日で1年のクリーンを迎えられました。ありがとうございました。（あきら）

メーテル 感想文

4人のシンポジウムは冗談を交え聞きやすかった

会場に着いたらもう始まっていて、席に座ってピアサポグループの仲間たちの体験談を聞けました。人生もぐら叩きの仲間のお話が、まず印象に残りました。穴はいつでも開いていて、どの穴からモグラが出てくるか分からない日々である時モグラは一匹しかいなくて、下に潜んでないで出てきてもらえばいいんだと言っていて、そういう考え方もあるんだな、と思いました。

午後の部では小島さんのお話を聞いていくうちに、人生って色々とあるんだなと思いました。津田先生が「漢方がいい」とお話していただいたり、先生だからこその視点でお話していただけて、とても光栄でした。最後は、小島さんと津田さんと上岡さんと信田さんによるシンポジウムがあり、冗談を交えた聞きやすい内容でした。会場からの質疑応答もあり、皆さんが一生懸命に答えていることに感動を覚えました。時間の都合もあり、少し早めに出ましたが、自分にとってはとってもいい経験になりました。また来年も機会があれば参加したいです。ありがとうございました。（メーテル）

アモンさん、モッチーさん、シンさん、ハルサーさん、安らかに！

「もう苦しまなくていいんだよ、どうか安らかに永眠してください！」――重度のアルコール依存症だった入寮者のアモンさんが病死され、このほど実家のあるK市において葬儀・告別式が家族葬で営まれ、潮騒からも交流のあったデイケアの仲間達が参列しました。享年60歳でした。

アモンさんは東京生まれ。4年制大学の商学部を卒業して簿記の資格を取り、独立して会計事務所を営んでいましたが、中学頃から約40年の飲酒歴があり、50歳を前にアルコール依存症を発症。事務所を後進に譲ってリハビリに励みましたが、思うように飲酒が止まらずに脳出血や内臓疾患等で何度か命拾いしました。28歳で結婚しましたが、子供はもうけませんでした。妻は度重なる心労などから、心的な病で入院生活を送っています。

潮騒JTCには2年前の5月に繋がり、以来頑張って回復プログラムに取り組んでいました。潮騒では、亡くなった入寮者の多くが家族と疎遠な関係にあるために仲間に見送られる施設葬となりますが、アモンさんのように家族のもとに戻って葬儀が営まれるケースは少数派です。最後は家族のもとに戻れて、本人も本望でしょう。潮騒ではアモンさんの回復の魂を仲間達が受け継いで、自分の回復に繋げていく所存です。

また、ここにきてもう一人仲間のハルサーさんが亡くなりました。享年46歳、若すぎる死でした。真面目で読書好きな彼でした。所属ナイトは鹿嶋市郊外の農村部にある中施設で、「早くから仲間のケアをしていました。このまま順調にいけば、有望なスタッフ候補だったので残念です」（スタッフのトムさん）。合掌！

悲報が続きますが、仲間のモッチーさんもお亡くなりなりました。３人の御霊よ、どうか安らかなれ！（み）

モッチーへの弔辞

どんなに動作が遅くても許すことのできる仲間だった

７月14日にモッチーのお姉さん＝山本恵子さんより訃報の知らせが入りました。どれくらいだっただろう？驚きとショックで呆然と椅子に座り込んでしまいました。ただ残念の一言です。

モッチーとの思い出を書くことに私は少しためらいましたが、少しだけ書かせていただきます。第一印象はアニメキャラのマキバオー、あいかわいらしくどこか憎めない存在でした。言葉も動作もゆっくりで、時には息子のように思えました。そんな私と一緒に行動をともにすることになったのは、病院でした。B型肝炎の治療のため、近くにある総合病院に毎日通いました。

驚かされたのは、 思ったことはすぐに言う彼の生き方でした！「ツカさん、あの人きれいだよ」とか、「AKBの誰に似ている。かわいい」とかを大きな声で…、恥ずかしい？ と思ったが、私もバカになり、「そうだね！じゃあ次は声でもかけようか？ 名前を教えてもらおう」などなど、私を苦痛にせず楽しませてくれました。

最近では下津施設で療養しながら、病院通いをしていました。私とのもう一つの楽しみは、一緒に入る風呂でした。私が松葉づえなので、必ず椅子と桶を持ってきてくれて、シャンプーを渡してくれました。私はすぐに出るのですが、モッチーは1時間ぐらい入っていたかなあ。きれい好きなのか、すべて２回洗います。どんなに遅くても、許すことのできる仲間でした。もうともに歩めないのは残念ですが、私の中にモッチーとの思い出は消え去ることはありません。（ツカ）

薬物乱用防止講話

私達を反面教師に

断る勇気 持ってください!

潮騒ジョブトレーニングセンターはこのほど、藤代、坂東総合の県立高２校で行われた「平成30年度・薬物乱用防止教室」の講師としてオファーを受け、栗原センター長とマコトさん(デイサービス百寿代表)、農業隊メンバーのエンさんの３人が参加してメッセージを行いました。両校とも生徒達は、薬物依存の当事者としてのリアルな体験談に熱心に耳を傾け、依存に苦しんだ当事者が社会資源として生かされる意義ある活動となりました。

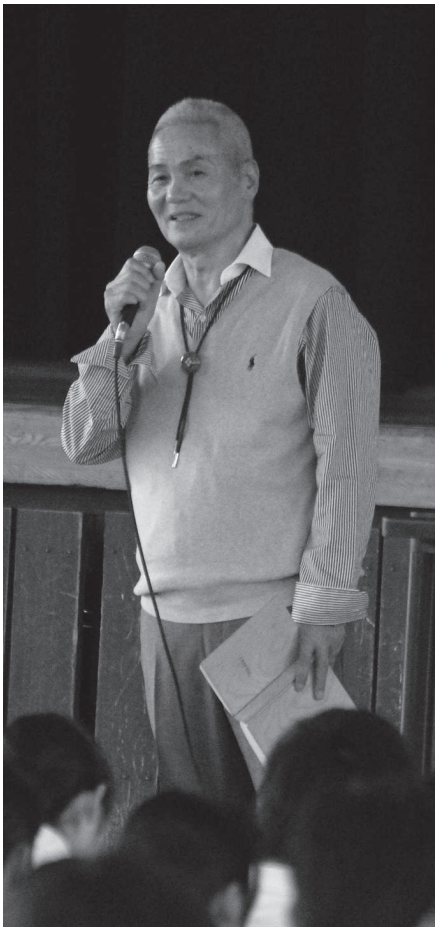
◇◇◇

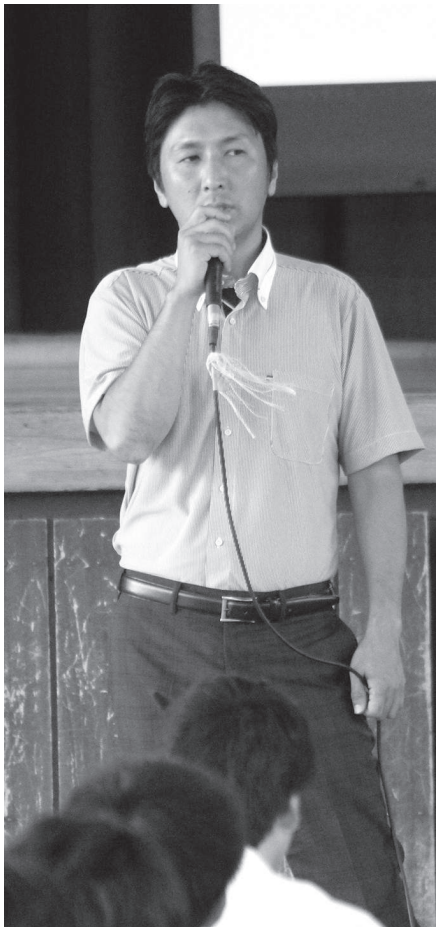
学校現場における薬物乱用防止教室といえば、「ダメ。ゼッタイ。」国民運動と連動して、主に取り締まりの立場から警察関係者や知識のある薬剤師などが講師を務めてきたほか、依存症の当事者としては先輩ダルクの岩井喜代仁・茨城ダルク代表が全国で活躍しています。同じ依存症のリハビリ施設ながらも「ダルク」の名を冠していないハンディからか、これまで潮騒JTCへのオファーは数えるほどでした。しかし、13年に及ぶ潮騒の地道な回復への取り組みと就労支援活動などが下地になり、今回両校からありがたい要請となったものです。メッセージ活動は仲間にとっても自分達の回復につながるだけに、今後も積極的に応えていく方針です。

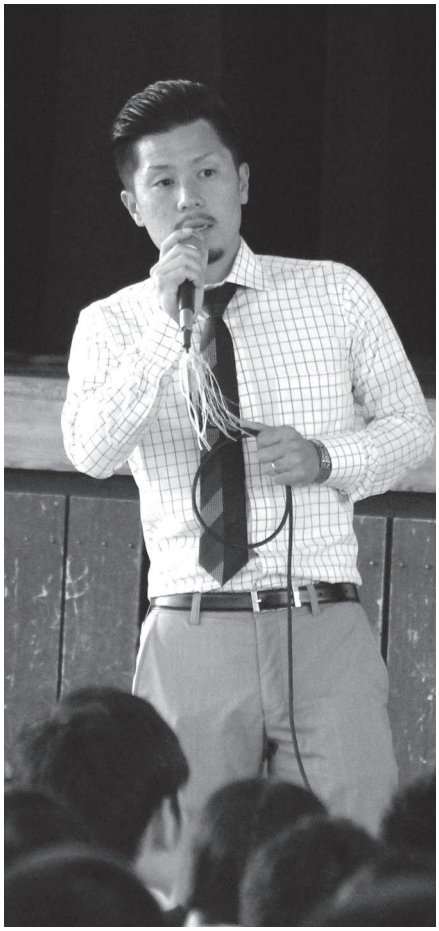
奇しくも今回は、地元の県立鹿島灘高校で学ぶ現役の“社会人高校生”の３人が講師を務め、高校野球の強豪として知られる県南の藤代高校（取手市、６月28日実施）と、県西地域で歴史のある農業系高校を母体とする坂東総合高校（坂東市、7月20日実施）の生徒達に熱いメッセージを伝えることができました。生徒数が700人を超える藤代高校は素直で穏やかな気質の生徒が多く、会場の体育館で終始３人の話に傾聴し、質問も寄せられました。小規模校の落ち着いた雰囲気の坂東総合高校では、翌日からの夏休みを前に酷暑にもかかわらず体育館で、生徒の皆さんが汗をかきながら３人の話に耳を傾けてくれました。

２校とも講話では、マコトさんがパワーポイントのスライド映像を使って、①薬物の種類と依存の怖さ ②使ってしまったらどうなるか ③一人で悩まずに相談機関に ④早期に治療の場につながることで回復できる ⑤実際に誘われた場合どう断るか――に力点を置きながら、覚醒剤に苦しんだ自分の体験を語りました。「自分は先輩に勧められ、断り切れなかった。でも、薬物を誘うのは本当の友達や先輩ではない。人生を狂わしてしまうのだから…」としみじみ語りました。

続いて仲間のエンさんが、長くシンナーに依存にして体験した幻聴幻覚の実体験の怖さや、ついには精神疾患を併発して今も後遺症に苦しむ様子をリアルに語りまし







た。「時折“死ね”という声に襲われ、楽しいことが楽しく感じられない。もう大丈夫と思っても、また手を出してしまう」と生涯治療の苦しい胸の内を打ち明けました。

栗原センター長はまとめとして、薬物依存の背景には深い人間関係の「孤立と孤独」があることを強調、機能不全家族のもとで育った自分の過去を振り返り、「13歳から酒を飲み、20代からは覚醒剤にも手を染めてきた苦い過去の経験がある私は、75歳のおじいさんになった今でも薬物に苦しむ夢を見ます」と話しました。その上で、自分の孫世代よりも若い生徒達に向け、「どうか私達のようにならないでください。私達の体験を反面教師にして、薬物に誘われても断る勇気を持ってください。そして明るく楽しい、意義ある人生を送ってください」と締めくくりました。茨城県では薬物乱用防止条例が施行されて３年が経過し、地域では薬物乱用防止指導員の啓発活動が取り組まれています。しかし、思春期にある生徒達にとっては、真面目にまっとうな人生を歩む人たちによる「危険！」「ダメ！」講話よりも、「私達を反面教師に」という失敗経験のある当事者の講話のほうが心に響くようです。潮騒では学校現場への配慮を加えながらも、当事者が失敗を正当化する事なく正直に依存症の実体験を告白する形でメッセージしています。これからも可能な限り、学校現場の要請に応えていく決意です。（潮）

ひたちなか市の地域団体に薬物乱用防止で現地メッセージ

ひたちなか市の「一中地区地域のふれあいをひろめる会」から薬物乱用防止に関する講演をしてほしいとの依頼があり、7月８日に栗原センター長とマコトさんとともに講演を行ってきました。年配の方が多く参加され、講演会は「地域に薬物を持ち込ませない風土を醸成し、明るい地域の維持と青少年の健全育成に資する」目的で開催された。

マコトさんは、薬物依存から自身の妻や子に対してしてしまった過去の過ちを話し、先輩との関係から薬物に手を出したマイナス体験を踏まえ、「薬物を勧める相手を説得する必要はない。逃げることも勇気です」とメッセージ。栗原センター長は子供時代に形成された深い孤独感を払拭するかのように任侠道の人生に身を捧げた過去を披瀝。やがてアルコールと薬物に依存するようになり、命をかけた任侠道の世界からも追放されて生きていくことが困難になり、「気がついたら負の連鎖が完全にできあがっていた」と話しました。その上で「地域の力で周囲から孤立させずに、一人で悩ませないようにして欲しい」、「『薬物に頼らなくても人は生きていける』ということをみなさん忘れないで欲しい」という願いを伝えていました。（タチ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

がーちゃんの 極私的懺悔録

「他人事だと思って…」

その5 ヒトラーが憑依し無為徒食の自堕落な日々が続く

【PRめいた著者プロフィール】
- ❖ アノニマスネーム「ガーゴイル」（36歳／男性）
- ❖ 出身：北関東の田舎町
- ❖ 前職：元詐欺師（自称）のような仕事＆元介護福祉士
- ❖ 病歴：鬱病・発達障害・自閉症・各種依存症（薬物・アルコール・女性・対人関係 ets）

「ああ嫌だ、嫌だ、もう嫌だ」と急に厭世気分に

（前回からの続き）ロックンロールの草分け、リトルリチャードの曲に乗って踊りながらウイスキーを飲み終えた私は、急ぎ台所に向かい「ビールはないかしら？」と依存症に特有なアルコール探索行動を始めた。そして以前買い置きしてあったアサヒスーパードライを見つけ、これを一気に飲み干した。すると今度はお腹が「グー」。私は腹が減っていることに気づいた。ふと好物のペペロンチーノをこしらえて食べようと大鍋に熱湯を沸かし、いざパスタ投入となったところで、肝心のパスタがないことに気づいた。

「なぜパスタがないのか？ これは我がナチスドイツ帝国の一大事。国民にどう説明するのか？ ゲーリング君、答えたまえ！」。どうやら私は無意識に約70年前の東欧で一大帝国を築き上げた総統閣下の物真似をしていて、いつの間にかヒトラー総統が自分に乗り移っていたのだった。だが探し物は見つからず、足元の包丁の入ってる扉を開けてみた。すると、あった！「だが、待てよ…」。パスタは通常小麦色だが、このパスタは赤い。スターリン率いる赤軍の進行で、このパスタにも共産主義が汚染してしまったか？ 我が盟友のイタリア首相ムッソリーニ君は国民に処刑され無惨に殺されてしまったが、パスタまでもそうなのか…、「どうなんだ、ボルマン！」。憑依した総統閣下は側近のナンバー２に激昂した…。

正気に戻って、よく見るとパスタが赤いのはカビだった。「なーんだ。よかった、よかった」。いや、よくない。まずパスタがないと好物のペペロンチーノが作れない。このままだと腹が空きすぎて死ぬ。パスタなんて本来傷まないものである。それがカビで真っ赤になっているということは、我が家の衛生環境を見直さなければならない。どっちにしろカネがかかる。「ああ嫌だ、嫌だ、もう嫌だ」。私は急に厭世気分になった。すると三度目の正直か、またもやヒトラーが私に憑依した。「ワタシはウイスキーを所望する。ゲッベルス君。これはドイツ国民の勝利のためなのだ！」と絶叫。ウイスキーを気絶するほど飲み、実際に気絶した。すべては敬愛するドイツ国民のためだ。これが夢なら、永遠に醒めない方がいい…。

酷暑の夏に部屋は足の踏み場もなく家計は破綻寸前に

でも、私はこの国の貧しい現実のなかに生きている。目覚めると６月のジメっとした気候から、うだるような酷暑の７月に変わっていた。そろそろセミも鳴きはじめ陽炎立ちあがる、本格的な夏の到来である。私はなんら生産的なことをしなかった先月の自分を恥じて、なぜかトランクスにランニングという格好で昼間からバドワイザーを開けていた。時は午前８時。通勤で急ぐビジネスマン、集団登校の小学生をカーテンの隙間から眺めつつ、股間をポリポリ掻きながら一気にバドワイザーを飲み干した。相変わらず部屋はモノが散乱して足の踏み場もない。寝っ転がっているベッドに

は髪の毛が抜け落ち、機関銃で撃たれたようにタバコの穴が毛布に黄ばんでいた。いや黄ばみを通り越して茶色く変色し、枕は昆布の煮しめのような色になっていた。もちろん部屋においてあるもののすべては冬物。炬燵も出しっぱなしで、床に落ちているのはロングトレンチコートだ。そこに大量の夏物衣料をぶちまけたので部屋はさらに混乱し、大地震のときの悲惨さを醸し出している。

そんな絶望的な部屋の主は、外の様子を眺めているだけ。そんな状況が2週間近くもつづいている。たまに近くのコンビニに出かけてはサラミ、コンビーフ、チーかま、プリングルス、辛いーかなどの食料品とウイスキー、ビール、いいちこなど酒類を猿股姿で買う。それ以外は滅多に表には出ず、少しは羞恥心が残っているのか、ゴミだらけの部屋を見られるのが嫌で来客を拒み続けている。完全な孤立状態のなか、私は股間を掻きながら「まいったねこりゃ」と呟いた。だが、参ってる場合ではない。部屋は後回しにしても現在、我が家には収入というものがまったくない。なのに水道代、ガス代、電気代、ケーブルテレビ代、JCBカード、ライフカード、Vizaカード、スマホ代、BSチャンネル、ニコニコ動画有料会員費などが容赦なく毎月押し寄せてくる。このままではウチの家計は破綻してしまう。

薬の離脱で顔の筋肉が引きつり
股間には痒みが

「怠け者の節句働き」でもいいので、このまま労働しなければにっちもさっちもいかなくなるのは自明だ。そんな窮地にもかかわらず、どんなときにも働かない私の「三年寝たろう」精神は揺るぎなかった。ただ体は正直なもので、このころの私は全体的にだるく（ダルクじゃないよ！）、もはや病院に行くべき状態ながら行くことはなかった。だから毎月の処方であるブロザックやパキシルなどの精神安定剤、ヒルナミン、マイスリーなどの睡眠導入剤を完全に切らしており、離脱症状である寒気、吐き気、頭痛、目眩、ふるえ、痺れ、不眠…が酷い。なのに私は、相変わらずアルコールのみで対応している。いくら飲める口とはいえ、こんな酷い状態で飲む酒が美味いわけがない。半ばやけくそで飲んでいた。ニヤニヤしているように見える私の顔は、薬の離脱で顔の筋肉が引きつっているだけで、面白くもなんともない。掻きむしった股間もインキン、タムシに罹患しているのか、ネトネトとした汁が浸み出して気分が悪い。

私は日々とんでもない自己嫌悪に襲われていた。だが、それも「まあ今じゃなくていいだろう」と思い、部屋に立ち込める熱気をどうにかしようとしてエアコンのリモコンを探した。ゴミだらけの部屋で捜索は困難か？と思われたが、意外に早く見つかり、ひと安心。本棚にあったので取ろうとしたが、手が届かない。寝っ転がっているベットからから少し体を捻じって移動すれば楽々とリモコンが手に入るのだが、私はそれをしたくない。なぜなら今の体制が体にベストフィットしており、これをみだりに動かすと敷布の配置、毛布のよじれ、布団のよい感じが一気に損なわれる。そのため迂闊に動けない。でも暑いので涼は取りたい。

私は一計を案じ、腕をぎゅーんと伸ばして指先のみでリモコンを回収する手だてにでた。しかし腕を伸ばしても触れるのは人指し指ばかり。リモコンは本棚のうえでクルクル回るだけで一向に届かない。私はもっと抜本的な改革を行うことにした。まず5センチほど体をベット上部に上げてうつ伏せになり、水泳のバタフライのような格好で両手でリモコンをキャッチすることにした。私はベッドのうえでぎゅんぎゅんに体を反らした体勢でリモコンに向かった。なんとかリモコンに手が届いた瞬間、こち亀、鬼平犯科帳、部下を上手に誉める方法、ギターマガジン、誰でもできるゴルフパターの練習法などのくだらない本が本棚越しに倒れてきたのだった。私はうつ伏せのまま車に引かれた蛙のようになってしまった。身動きがとれず、いや身動きをとる気力もなくなり、そのままうずくまったのである。なんでいつも私はこうなのだろうか？

リモコン入手の怠惰な行為が
墓穴を掘る事態に

確かに本棚にあるリモコンを手にするには、並々ならぬ苦労がいるわけではない。ただベッドから這い出し2、3歩ほど歩いて取ればいいだけの話だ。それをシーツがどうだ、布団がどうだと言い訳を考えては少しでも楽をしようとしている。見下げ果てた豚野郎である。さっき我が家を通過した勤め人のおっさんも学童もみんな色々苦労し、工夫をして生きているのである。それがなんだ、オマエは！まるでリモコンを取ることが人生の一大事のように振舞い、揚げ句に本棚の下敷きになっている。

しかし、このまま自己嫌悪に陥ってるわけにはいかない。こうなったら私は、意地でも涼風を味わってやるとばかりに、リモコンのスイッチを入れたのだった…。

（以下次号に続く）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

受刑者からの手紙

気を緩めずにしっかりと地に足をつけて頑張る

お元気ですか？　薬物依存のタカです。シゲさんからの便りと潮騒通信、嬉しく拝読させていただきました。こちらは９月に運動会が行われる予定で、私は足が痛いために競技には参加せず、応援のほうで盛りあげていこうと思います。私はここにきて４年目、３度運動会を経験していますが、３回とも懲罰や処遇上で、運動会を見られていないため、今年こそは運動会に参加出来るように落ち着いて生活しています。

さてシゲさん、潮騒にお世話になって２年10ヶ月とのこと。その間、一滴も酒を呑まずに生活しているとのこと。凄いです。娑婆で自由になんでも手に入る環境に置かれても誘惑に惑わされることもなく断酒している、シゲさんは大したものです。私でしたら誘惑に誘われて「一発なら…」と覚醒剤に手を出してしまうと思います。今、刑務所に務めている現状で私は薬物から離れられていますが、睡眠薬から安定剤、痛み止めなど、多くの薬に頼っているので、社会復帰しても本当に覚醒剤から手を引けるか心配です。しかし今、眠剤のほうは止められているので少しずつ量を減らしていこうと思っています。

シゲさんのいう一日一日は大切ですね。積木崩しにならないように気を緩めずにしっかりと地に足をつけて、前向きにお互い生きていきましょうね!! 私も残刑1年9ヶ月、無事故で頑張ります。シゲさんからのお手紙と潮騒通信、楽しみに待っています。日々忙しいとは思いますが、一日認めていただけると嬉しいです。毎月シゲさんからの手紙を楽しみにしておりますので、どうかよろしくお願いいたします。今回はこのあたりで失礼いたします。

（北海道 A・T）

潮騒の施設を帰住地・身元引受人として申請した

暑い日々のなかご丁寧なお手紙と「どっこい生きてます」を送っていただきまして、ありがとうございました。色々な体験談を読んで、「好きな酒で人生を棒に振ってしまったのであり、酒を飲んで人生で成功した人は少ないよな」と思いました。私を含め、酒で失敗した人は自分でアルコールの問題を解決するには、自分の強い意志を強くもって、薬物･アルコールの誘惑に負けずに残り少ない人生を、人の役に立てるような人間になれるように酒を口にせず、潮騒ジョブのご支援を受けたいと思います。

この前、担当さんに潮騒の施設を帰住地・身元引受人として申請いたしました。今回は多分満期になると思います。そこで忙しいなか、迎えにきていただけたら、幸いです。本来ならばそこに電車又はバスにて行くのが筋道ですが、お金がまったくありませんので、ご理解いただければ幸いです。

（神奈川県　W・Y）

今度こそは懲役を終えてからの人生をやり直したい

拝啓　梅雨があけたと思ったら西日本で記録的な降雨により大きな被害があり、塀のなかから心を痛めております。そんななか、潮騒のみなさまいかがおすごしでしょうか？ このたびは心温まるお手紙をいただきまして、まことにありがとうございます。さて、私も残すところやっと10ヶ月となりましたが、鍛練の日々が続きますので、最後までしっかりと務めあげていきます。今度こそは懲役を終えてからの人生をやりなおし、まっとうに生きていきますので、センター長さま今後ともよろしくご支援、ご指導をたまわりたくお願い申しあげます。末筆ながらみなさまの益々のご健勝とご活躍を心より願っております。日ごろ潮騒通信を送付していただきまして、感謝いたしております。

（長崎県 K・K）

獄中の“特権”といえば受刑者のみなさまにはお叱りを受けるかもしれませんが、受刑生活も考えようによっては雑念を捨てて瞑想の時間が確保できるわけですから、神様から思索の恩恵を与えられたとも考えられます。じっくり自分の内面と向きあい、対話して精神的に成長してください。依存症の回復は霊的な成長がカギですから、その下地形成につながります。

親父も変わり１年が過ぎ 仕事も面白くて仕方がない

お手紙ありがとうございます。シゲさんがお元気でなによりです。私も毎日、仕事と回復へと頑張り、自分自身と被害者と家族に反省してから寝ることにしています。シゲさんも３年、４年とクリーンの継続、とても立派なことと感服の思いです。私も負けてはいられませんネ。今、親父も変わり1年がすぎ仕事も面白くて仕方がありません。工場のために頑張っております。残り８ヶ月となりましたが、一日も早くセンター長はじめみなさまのもとに帰ること、心に決めて頑張りますので安心してください。シゲさんも自分との戦いで、クリーンを長く長く継続してください。私も、シゲさんを見習って頑張りますので待っていてください。これからもっともっと暑くなりますので、みなさまもからだには充分ご留意、ご自愛ください。またシゲさまには大変ご迷惑だとは思いますが手紙を楽しみに待っていますので、手紙のお返事をよろしくお願い申しあげます。　（東京都　K・K）

覚醒剤を遣って居たのでは 獄死をしてしまうのでは？

なれない夏の日差しの強さに驚かされておりますが、栗原さまにおかれましてはますますご活躍のことと喜び申しあげます。私はつい先日拘置所へと移監されました。一審では一部執行猶予はもらえませんでした。それで控訴したのですが、今の所控訴審は決まっていませんが、自分としては最悪、一部執行猶予はもらえなくてもいい、と思っています。私が刑務所へといったら、私の身元引受人になってもらえませんでしょうか？ 出所したら、そのまま潮騒ジョブに行って、覚醒剤とは無縁な生活をしたいと考えております。私も年を重ねてしまい、また覚醒剤をつかっていたのでは獄死をしてしまうのではないか？と思っています。私には3人の子供がいます。その子どもたちにも愛想をつかされ、今回は面会にもきてくれません。手紙を出しても返事もきません。さすがに今回は自分も懲り懲りしています。私は今回の懲役で薬物依存から立ちなおりたく思っています。　（東京都　H・T）

分類から近々面接の予定が入っているとの報を受けた

栗原センター長、そしてシゲさん、その後お変わりなく元気でおすごしのことでしょうか？ 私は毎日リハビリを心がけ、日々、努力をしておりますのでご安心ください。ただ最近、回復のペースが落ちた様子にて、目に見えての進歩があまり感じられなく、ちょっと不安になってしまうことが多々あるのですが…。担当さんや同囚の仲間のみなさんに支えられながら、いつも前だけを見ながら生活をするように、頑張っております。

先日、分類の方から、近々面接の予定が入っているといってきましたので、今月中に仮面接がかかるかもしれません。もらってみるまではまだわかりませんが、年内に出られるかもしれません。これも全てセンター長が引受人となってくださったおかげであります。本当にありがとうございます。

それと潮騒通信が届きました。いつも、本当にありがとうございます。誌面からセンター長がお元気でご活躍をなさっておりますことを拝読させていただけますことが、現在の私にとりまして一番の励みとなり、沢山の元気をもらうことができております。シゲさんもあともう少しでクリーン生活が3年を迎えるようですが…、いつも広報のお仕事、本当におつかれさまです。この暑い季節、コンビニ等にて目にいたします冷たい飲み物の誘惑がたくさんあって大変であろう、と想像するところであります。私もあと数カ月にて、シゲさんはじめ仲間のみなさんと一緒に回復を目指していきますので、これからもよろしくお願いいたします。　（長崎県　O・K）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

しおさい俳壇

７月のお題　**西瓜**

選者 **桐本石見**

人生は60歳からでもやり直せる！ No.54

センター長 栗原 豊

ミーティングへの拒否反応も仲間の中で自然にほぐれて

開所して間もない千葉ダルク（当時は松戸市内）は、なんの変哲もないごく普通の二階建て木造民家だった。コンクリート塀の冷たい世界から出て間もない私にとって木造家屋はどことなく懐かしく、温もりあるたたずまいに感じられ、元受刑者の私をどことなく受け入れてくれる雰囲気があった。ここには2、30歳代を中心とした男性８人がすでに共同生活をしていた。身にまとう衣服に世代感覚の違いを意識したが、そんな私を快く仲間として迎え入れてくれた。案内された６畳ほどの部屋には二段ベッドが２つだけ、きわめてせまい空間だったが、私は「刑務所よりもせまいかな。でも十分満足です。初対面の面々とせまい空間のなかで寝食をともにすることには慣れていますから…」と、寮長らしき若者に丁寧な言葉つかいで話した。実際、私は藤岡ダルクへの入寮を断られ、さらに大宮警察署に留置されたことで相当へこんでいた。でも、辛抱強い姪の導きで鹿島ダルクに繋がり、その流れで千葉ダルクにいることを素直に感謝できた。「これで当面の食と住は確保できる。まずは社会になれることが大切だな」と自分を鼓舞した。

奇跡としか呼べない姪の導きによって、運よく入寮できた千葉ダルク。とりあえず無難に施設生活をスタートさせたが、それはなんとも不思議な日々だった。朝と晩を中心に、一日２～３回のミーティングの時間がもたれる。あるひとつの話題について、入所者が一人ひとり、ひたすら意見を述べあう。例えば「恨み」がテーマなら、まずそれぞれが「恨み」をキーワードにさまざまな事柄を語っていく。家族のこと、仕事のこと、友人のこと、クスリのこと、酒のこと…。しかし、ダルクの基本となるこのミーティング活動については違和感があった。正直にいえば、はじめは拒否感を示す異様な光景だった。なぜならミーティングでは徹底して自分に正直に向きあうことを求められたからだ。それは下獄する３年前の生き方とは対極にある価値観であり、「なんでこんなことをやっているんだ？こんな自分の恥となるようなことを俺は語りたくもない」。ヤク中・アル中に成りさがったとはいえ、「任侠道命」を第一義にして生きてきた私の過去は重たい。不安と抵抗感が入り交じりながらも、次第にそうした頑なな態度も時がたつにつれ、仲間たちのなかで自然にほぐれていった。（次号に続く）

※都合により、これまでの「わが俳句の歩み」から「人生は60歳からでもやり直せる」にタイトルを変更します。

ポンポンと叩き西瓜の品定め

みく

西瓜の原産地はアフリカのサバンナアヤ砂漠地帯で、日本には中国を経て室町時代に伝わったと言い、西から来た瓜なので西瓜の名が付いたとも。その頃は丸く黒色であったが、昭和の初め頃に改良されて縞のある今の西瓜になったとされる。農家の人は熟れ頃を見極めるのも確かだが、私達はそれでも店で叩いて買う。子供の頃、西瓜採りに行ったのが懐かしい句です。

特選句

友来たり何も無けれど西瓜割る

あべ

今はスマホの時代なので事前の連絡が多いが、それでも突然の友の来訪に西瓜を切って出したのだ。友人だけに角ばることもなく、日頃の話をする。都会では縁側のある家も少ないが、田舎では農家を含め縁側で涼をとりながらの持て成しも多い。

特選句

友逝けり今宵も仰ぐ天の川

ゆたか

天の川は夏秋の頃見えるので彦星織姫伝説の七夕や、仙台、平塚の七夕祭などが名高い。この詠はその天の川を仰ぎながら友人の死を悼む句で、「今宵も」に切々の思いがあります。私にも「妻いまは空の織姫星祭」があり、天の川を眺めると懐かしい。

特選句

今月の秀逸句

大盆に三角赤き西瓜かな　ゆーみん

西瓜には黄色と赤があり、外皮が黒く中実の黄色はお月様、赤は祭りばやし、などの名もあります。家族か来客か大きな盆に数多く切って、持て成した景を彷彿して明るい句です。

懐かしや子の日に還る西瓜割り　マコ

海水浴やキャンプ、家族の遊びの一つで西瓜割りがあり、割れても失敗でも子供達の歓声で賑わう。一九九一年にJAが距離約九米棒の長さ一、二米など規定を定め大会もあるとか。また中国の三国志の頃戦の前に生き埋めした人を棒で叩き殺したのを、諸葛亮が人命を思い西瓜で代用したとも。海運、漁業の人が無事を祈願する行事とも、今は遊びだが深い歴史の謂れもあります。

縁側で西瓜の種を飛ばしっこ　ピノコ

西瓜を食べたながら種を飛ばすのも遊びで懐かしい。今では観光を兼ねて、サクランボ、梅などの大会もある。因みに、西瓜は9米、サクランボは13米、梅は22米が記録だとか。また縁側は田舎で物干しや近所付き合いの社交場でもあった。

めんこいよ西瓜頬張るわらしかな　田野

「わらし」は座敷わらしのことか、夜など出てきて悪戯をしたりする岩手県などの民間信仰の子供の精霊。座敷童子とも言い、棲むと家が栄え、居なくなると貧乏になるとも。この詠はそうした想いで今の子供を思う句で、めんこいは可愛いのこと。

佳作

西瓜食べ種を飛ばすや誰が一番	みく
西瓜食ぶ甲虫にもお裾分け	みく
西瓜食ぶ恋人同士海を見て	メーテル
甘いつゆ指にたれぬる西瓜かな	ゆーみん
西瓜割りビーチの日差し浴びながら	れいん
風鈴の音聞き食べる西瓜かな	ゆうこ
愛し子と一緒に笑ふ西瓜割り	しま
歓声の下津の浜や西瓜割り	コバ
携帯に西瓜届きし声弾む	あべ
みどりさん西瓜ぶら下げ今日も来し	なん
西瓜割り家族と遊ぶ海の家	たの
村の子のお遣い一里西瓜畑	あべ
新盆の捨て切れぬ物ばかりかな	ゆたか

潮騒ポエム

大空のあなたへ
～ありがとうを伝えたくて

ごめんね。
あなたがいなくなった日から
何度も言い続けた言葉
私は今でも後悔している
あなたの辛さに気づいてあげられなかったこと。
一番近くにいたのに
あの日最後に見たあなたの後ろ姿は淋しそうだった。
それを私は今でも忘れない。
あの日、あなたを失ってからうまく笑えなかった。
私は幸せだった。
生まれてきてくれてありがとう
短い間だったけど一番にいられてうれしかったよ
たくさんの思い出をありがとう
ステキな笑顔をありがとう
ずっと忘れないからね
本当にありがとう
いつの間にかごめんね。がありがとう。になっていた
空がうれしそうだった
あなたも喜んでいるみたい
あなたも安心したのかな
私はあなたを心配させていたのかもしれない
ずっと後悔して自分を責めていたから
私は自分を責めているのをやめたら
私は自分を責めるのをやめた
一歩ずつ自分のペースで
ゆっくり歩いていくと決めた
だって私は生きているから
空を見上げたら虹が出ていた
あなたが包む太陽と
やさしく見る月と
ふわふわ笑顔をくれる雲と
さらさら力をくれる星たち
空のみんなの色が集まって虹を作っていた
どんなに笑っても本当の笑顔じゃなくなっていた
私は無理をしていた
心が無理をしたし辛い笑顔になっていた
そんな時ふと空を見上げてみた
きれいな青空だった
空を見ているとそこにあなたがいるような気がした
空が微笑んでいた
まるであなたが笑いかけているみたいだった
ちょっとひんやりした心地よい風が
やさしく語りかけてくれた
まるであなたが
無理しなくていいよと言っているみたいだった
自然と涙が出た
ちょっと心が楽になった
それから空を見上げるようになった
空を見ると自然と笑顔になれた
空が見るたび違う顔を見せてくれた
空がいつも私たちの近くにあるように
あなたがいつもそばにいる気がした
空のあなたが聞いてみた
あなたは生まれてきて幸せだったかな
そして今まで言えなかったことを伝えた
空が本当にきれいだった
この空が本当にきれいだった
この空がいつまでもきれいで笑ってくれるように
大空のあなたへ
また会えるといいネ…
（いしだのぶゆき）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～「アル中のシゲ回復記」 第1回

お酒飲む人花なら蕾　今日も咲け（酒）咲け（酒）明日も咲け（酒）

はじめまして、アル中のシゲ（56歳）です。私は潮騒JTCにお世話になって３年になりますが、お蔭様でひと口もお酒は飲んでいません。私は現在、全国の刑務所にいる受刑者からの手紙の返信作業（これも大事な回復プログラムです！）や、潮騒の各種イベントではカメラマンとして頑張っています。「今日一日」を大切に、そして今「生きて」いきます。連載初回ですので、まず簡単に私の自己紹介をします。

私は５年ほど前に都内の精神科病院で「アルコール依存症」と医師から宣告されました。当時は毎日２リットルのお酒を飲み続け、毎日をすごしていたのですが、仕事にはいかず、掃除洗濯もほったらかし、風呂は盆と正月くらいで、半ば廃人と化していました。何度も入退院を繰り返し、ある時は血を吐きながら飲んでいました。でも、「俺はまだ大丈夫、まだ正気だ」と狂いつつある頭で必死に自己弁護していました。完全に酒に乗っ取られ、もはやコントロール不能の状態なのに、「否認の病」であるアルコール依存症によってさらに酒に溺れていきました。家族、親兄弟、友人らに「もう飲むな！」といわれても、素面でいることが恐ろしくてたまらず、おかまいなしに飲みまくりました。

私は、重複障害という病気を持っており、 酒を飲むと必ず癇癪を起こして暴言・暴力・クレームなど反社会的な行動を起こし、何度も警察のご厄介になりました。一人、また一人と親しい人たちが離れていき、戻ってきませんでした。最終的にはひとりぼっち。酒だけを頼りに生きていました。「酒さえあればなにもいらない」。狂った頭でそう自分自身に言い聞かせましたが、次第にアルコールの過剰摂取による幻覚幻聴に襲われ、自分を責め苛むようになり、地獄絵図の日々が続くようになりました。なぜこんなに苦しむのか？ 私は私以外の全ての人を恨み、憎むようになりました。このころの私は、本当に最低で最悪のアルコール依存症でした。どう自己弁護しても、すべては自業自得、身から出た錆、自分で種子を撒き、肥やしも自分でまいた結果です。誰も相手にしてくれませんでした。私のアルコール依存によって本当に最低、最悪の経験をしたのは親、弟、友人などです…。（次号に続く）

7月のバースデイ

いのき

農業隊がんばります。

きん

青春 !!

ケンボウ

頑張ります

ちょう

どっこい
生きてるぞぉー !!

つか

アイラブ〇〇

つぐお

クリーンで頑張ります。

のん

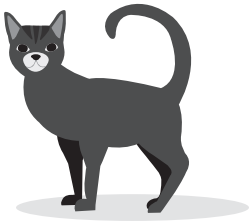
ありがとうございます。

ひーさん

赤いちゃんちゃんこが
似合う年になりました。

みぐ

感謝



7月の行事

7月8日　ピアサポ祭り2018（東京・世田谷区）
7月8・21日　秋元病院メッセージ
7月13日　潮騒人間塾（講師・加納淳子さん）
7月19日　潮騒俳句会
7月20日　県立坂東総合高校薬物乱用防止教室
7月22日　潮騒家族会
7月22日　茨城ダルク26周年フォーラム
7月28日　美空野（みその）保育園夕涼み会支援
7月29日　潮騒アディクションセミナー

8月の行事予定

8月3日　大和ハウジング納涼祭
8月9日　潮騒俳句会
8月11日　潮騒暑気払い交流会
（都合により中止の可能性も）
8月12・19日　秋元病院メッセージ
8月24日　潮騒人間塾（講師・城間勇さん）
※城間さんはリカバリーパレード東京実行委員長
※　8月の潮騒家族会はお休みです。

※8/11～13は潮騒食堂「おらげのかまど」は営業を休みます。

献金・献品を頂いた方（7月15日現在）

・一中地区地域のふれあいを広める会 福祉部会 様
・ケージーコーポレーション 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

別に決まりはないのだろうけれど、編集後記は取材や編集の感想や記事には書けなかった裏話、トラブルや苦労に関する内容が書かれることが一般的だが、ボツになった話なども取り上げられることもあるようだ。誤解を恐れずに言えば、僕の場合はあえて“独り言”を加えたように、何とかして「自分の表現の場」を確保したいという心理が働いている。だから、自己主張の強い色合いの編集後記となっていると思う。ただ、読者にとって嫌味や独善的にならないようとの配慮はしているのだが、どうだろうか…。で、今回は潮騒のインフォメーション・コーナーの役割を持たせた。まずは今年12月2日（日）に、鹿嶋勤労文化会館で開く潮騒13周年フォーラムについての告知。以前のように午前・午後の一日がかりの日程とし、昨年試行的に取り組んだリカバリーパレードとのドッキングですが、今回は分離して潮騒独自で潮騒・鹿嶋リカバリーパレードを10月7日（日）に実施する計画です。開催趣旨、呼び掛け団体、パレードコースや時間、警察への道路使用許可申請、広報作業をどう行うかを、プロジェクト会議で早急に煮詰めていきます。フォーラムの準備作業と並行した取り組みとなるので、あまり準備の時間が取れないとしても昨年の経験を生かして何とか成功させたいと思う。皆さんのご支援を宜しくお願いします。なお、これまでにフォーラム・テーマを「潮騒ミュージックステーション～歌と踊りで回復の魂を揺さぶろう！」に決めたので報告します。今回は映像を使う場面がほとんどないと想定されるが、その分潮騒独自の音楽活動を全面に打ち出して仲間の回復をアピールする内容構成となる予定。従来フォーラムと比べると、外部からの支援によるチャリティー歌謡ステージがメイン企画の一つとして加わる。各地のダルクフォーラムでもミュージシャンとして活躍する当事者による熱いステージの例は数多いが、今回は栗原センター長の好きな演歌の世界が潮騒フォーラムを盛り立てる事が期待される。ただ、舞台上に立つ歌手も彼らを目的に集まる市民（歌謡ファン）も、恐らくアディクション問題に対する理解や知識は薄いと想定されるので、この機会を逃さずに工夫を凝らした企画でPRしたいと考える。どうしたら歌謡ステージとアディクション問題との整合性を図れるか、関係者との話し合いを進めて具体的なプログラム内容を煮詰めていきます。（市）

潮騒通信　どっこい生きてます！　2018年7月

Contents

P❷ 機能不全家族の修復と連鎖を断ち切るために
P❸ 加納淳子さん（栗原センター長の長女）
～依存症家族の困難を自助努力で克服した人生を語る
P❹ るみの家「ピアサポ祭り」感想文
P❺ アモンさん、モッチーさん、シンさん、ハルサーさん、安らかに！
P❻ 薬物乱用防止講話
私達を反面教師に断る勇気持ってください！
P❽ がーちゃんの極私的懺悔録 その5
～ヒトラーが憑依し無為徒食の自堕落な日々が続く
P❿ 受刑者からの手紙
P⓬ しおさい俳壇　7月のお題「西瓜」
P⓮ どっこい私も生きてます「アル中のシゲ回復記」／6月のバースデイ
P⓯ 行事予定 ／ 編集後記 ／ 献金・献品 ／ 目次

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
（潮騒アディクション・ケアセンター）
〒314－0031 茨城県鹿嶋市宮中4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール　k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ　http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年7月21日発行　SSKU増刊通巻 第6155号

発行所　〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年7月21日発行　SSKU 通巻 第6155号